

## 令和元年度 特別の教育課程の実施状況について【自己評価】

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
戸田市立芦原小学校	戸田市教育委員会	公立

## 1 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで小学校第3・4学年において「総合的な学習の時間」の年間35時間を充てて「英語活動」を設定してきた。また、第1・2学年でも「英語活動」を学校教育法施行規則第51条に定められる授業時数以外で年間20時間程度実施し、成果を上げてきた。

新学習指導要領の完全実施を見据え、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ① 小学校第3・4学年において、現行の35時間実施している英語活動に、総合的な学習の時間を年間35時間削減し、35時間を加えた英語活動を実施する。
- ② 本市の研究組織である戸田市英語教育研究推進委員会は、①の時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、英語活動をとおして、グローバル力と異文化力を育成する。

- ① 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。
- ② 中学生海外体験派遣事業（主催 戸田市国際交流協会）等、国際交流事業への参加促進や、異文化を受容したり異なる文化をもつ人々と共生したりする意識の醸成。

## (3) 特例の適用開始日

平成15年4月1日 特例の適用開始  
 平成21年4月1日 変更  
 令和2年4月1日 変更

## (4) 取組の期間

令和12年3月31日まで

## 2 特別の教育課程の実施状況

- ・小学校3・4年生において「総合的な学習の時間」の年間35時間を充てて、その時間を英語活動として実施した。(週1回の45分授業と週3回の15分モジュール授業)
- ・45分授業とモジュール授業がつながる単元構成を工夫した。
- ・45分授業ではALTと連携し、「ふれる・なれる・親しむ」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・校内研修を年3回実施し、英語力や英語指導力の向上に努めた。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、戸田市英語教育推進委員会が開発した「英語教育指導用ルーブリック」を活用し、授業研究会を開催した。

- ・戸田市英語教育推進委員会が開発した CAN-DO リスト改訂版を活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。
- ・各学年で英語部員を1人設け、学年の英語リーダーとして授業の進度や内容を確認してもらいながら進めた。
- ・1、2年生においてもモジュール活動を計画的に実施し、低学年のうちから英語に慣れ親しむ活動を積極的に取り入れた。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・学校だより、ホームページや Facebook 等を活用して、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
- ・学校公開では外国語活動や外国語科の授業参観を公開した。
- ・保護者会や学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。
- ・戸田市の広報紙や広報番組「ふれあいとだ」にも、英語教育の特集が組まれたので、市民へ情報発信した。

### 3 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、小中一貫の英語教育をとおして、グローバル力と異文化力を育成するため、コミュニケーション教育を推進するものである。

本校の英語活動実態調査・意識調査の結果を分析すると、「英語活動の時間が好きですか」の項目で76.5%、「外国人や友達の質問に反応し、自分の考えを伝えているか」の項目で87.7%という高い数値を示しており、本校が目指している子供像に迫りつつある。

また、英語活動で意識している「4つのコミュニケーションルール」(アイコンタクト・クリアヴォイス・ナイススマイル・グッドレスポンス)の効果が、人権意識の向上や豊かな心の育成に良い影響を与えている。

一方で、全学年共通して低い数値を示していたのが、「話をしたことがない人と話すことが得意ですか。」と、「外国の人と話すのが好きですか。」という項目であった。グローバル化が進んではいるが、身近に外国の人と接する機会が少ないことが背景にあると考えられる。ALTとの時間をより有効的に活用し、コミュニケーションを積極的にとることへの自信をつけ、課題を克服するよう努める。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校ではALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの本物の英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化にふれたりしている。そのため他国を尊重する心が自然とはぐくまれている環境にある。

また、学年末に実施したALTとのスピーキング実態調査では、問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図れていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、自己開示・自己発揮できる児童が増えており、グローバル社会で求められるコミュニケーション能力が着実に育成できており、特例校の取組の効果が表れている。

一方で、意識調査の結果から、学年が上がるにつれ、「英語活動の時間が楽しいですか。」という項目が下がってしまっているという課題がある。(3年生では89%、6年生では62%)。このことから、低学年・中学年のうちにコミュニケーションの素地

を十分に育て、高学年においても関心意欲を高められるような授業展開の工夫をしていく必要があると考える。

#### 4 課題の改善のための取組の方向性

3に示した課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要である。戸田市英語教育推進委員会で作成した「ハンドブック 2019」や「ブックレット 2020」を最大限活用しながら、コミュニケーション教育を推進していく。

また本校では、どの教科においても、わかってはいるが失敗を恐れて発言をしない児童が多いという実態も見られる。そこで、外国語・外国語活動の時間を充実させ、積極的なコミュニケーションを図れるようにすることで、失敗を恐れずチャレンジする精神を高める効果も期待できる。このことを全職員に周知し、引き続き校内での連携体制を十分に整えることで、さらなる英語教育の推進に取り組んでいく。